

校長室だより

2月号

杉並区立向陽中学校
平成31年2月28日発行
校長 菅野武彦

「人間賛歌が響き渡る学校づくり」を目指して

【今年度のキーワード】

「チーム向陽 ～みんなの向陽中学校～」

学校評価アンケート（4段階評価）の結果に基づく分析・考察

※ 肯定率（%）とは「全体に占める肯定的な人数の割合」のことです

学校経営はPDCAサイクルを踏まえて行います。現在「Check 評価」を行い、次年度に向けた「Action 改善」を考えているところです。学校が自己評価を行う上で、生徒自身がどのように感じているか、また保護者がどのように捉えているかを把握することは必要不可欠なことです。校長室だより1月号でお知らせしました「今年度の学校評価アンケートの集計結果」から見えてくる“成果と課題”を明らかにし、その“要因と原因”を探ることにより、次年度の取組の方向性を見出しことができます。次年度の改善に生かすよう努めてまいります。

（【肯定率】：学校の指導に関する生徒・保護者の肯定的な割合）

◇ 1 学習指導について

【肯定率】 生徒 **77.2%** 保護者 **64.9%**

→[次年度の方向性] ①生徒が「能動的」・「対話的」に学ぶ授業をする。②生徒が「なるほど」を実感でき、「なぜ」を考える授業をする。③「自発的な家庭学習」を促す生徒の選択と結果責任 ④生徒が納得する「評価・評定」の説明 ⑤道徳の評価

教育目標の『よく考える人』の具現化を目指し、今年度も「生徒を能動的かつ対話的に学ばせることで『自立した学習者』に育てること」と「家庭学習の定着」に取り組みました。実はふたつとも一筋縄ではいかない難題です。前者は、これまでの講義形式の授業から生徒が活動的な授業に変える必要があるからです。つまり、先生の話聞いてノートに写すだけの授業では生徒を『自立した学習者』に育てることはできません。後者は、生徒に“毎日、1時間以上”を求めている家庭学習ですが、生徒がその必要性を感じて実行しているかが見えにくいからです。例えば、宿題や定期考査前は生徒にとって家庭学習の必要性を実感できます。こうしたこと以外に家庭学習に取り組むことに困難な生徒が多いと推測します。突き詰めると、両者とも生徒の主体性が求められるもので、学校の姿勢や教員の指導が問われることとなります。

まず、生徒の手応えを見ると、「私は自分で課題を見つけ、進んで勉強するようになった」の肯定率は **63.1%** (第1学年 **58.4%**、第2学年 **60.0%**、第3学年 **69.5%**) でした。目標は“肯定率70%以上”でしたから満足できる結果とは言えません。一方、「学校は授業等でペアワークやグループ学習を取り入れ、生徒が活動的に学ぶよう取り組んでいる」の生徒の肯定率は **89.8%** でした。

た。つぎに、保護者の手応えを見ると、「我が子は自分に向き合い、進んで勉強するようになった」の肯定率は**54.5%**（第1学年**49.3%**、第2学年**46.7%**、第3学年**65.3%**）に止まっています。この数値は例年とあまり変わりなく成果が上がりにくいです。しかし、生徒の学習姿勢をよりよく改善することは、生徒の意識に働きかけるとともに教員の学習指導に欠かせないことであり、次年度も継続的に取り組んでまいります。目指すは、生徒を『自立した学習者』にすることです。

つぎに、「家庭学習の定着」の結果について見てみると、毎日1時間以上家庭学習を行っている生徒の割合は、第1学年**27.2%**、第2学年**34.9%**、第3学年**72.2%**でした。この結果は冒頭にも述べましたが、家で勉強する“必然性”ということになります。それにしても、1年生の数値の低さは何とかしないとはいけません。保護者の手応えは、「我が子の家庭学習は定着している」の肯定率が**45.9%**と横ばい状態が続いています。多くの生徒が放課後の時間を部活動や地域スポーツ活動、通塾等に費やしていることを考えると、必然性を伴う宿題や定期考査前の勉強はまだしも、自発性を伴う予習・復習となると時間的な制約が立ちはだかっていることが考えられます。また、時間的に余裕のある生徒については、必然性と自発性を上手に使い分ける方法を助言することがカギになります。こうした生徒の実態を考えた時、学校が生徒に一律に「毎日1時間以上の家庭学習」を求めるよりかは、生徒に自立を求める「選択と結果責任」について説明し、「より自発的な家庭学習」を促したほうがいいかもしれません。勿論、成長段階に応じた対応や助言を求める生徒等に対する対応に留意する必要があります。

つぎに、学習指導について気になる点を見てみます。「わりやすい授業」の保護者の肯定率が**59.2%**（第1学年**66.1%**、第2学年**51.5%**、第3学年**60.0%**）と、第2学年が他学年に比べて極端に低いです。また、「評価・評定についての説明及び情報提供」の同肯定率が**60.9%**（第1学年**68.7%**、第2学年**61.1%**、第3学年**55.3%**）と、こちらは第3学年が他学年に比べて低いです。

「わりやすい授業」については、おそらくは生徒がわかりにくいと感じていることが保護者に伝わっているものと推測できます。事実、2年生から学年の教員にこうした声が挙がっているとの報告がありました。これ以外でも講師の先生の授業がわかりにくい等の声があり、その都度教員に対して指導を行いました。「評価・評定」については、進路に直結する第3学年において説明や情報提供が不十分であると感じていますが、これは例年の傾向ではありません。学年にかかわらず、生徒が自分の評価・評定に納得することが一番の解決策です。この生徒の納得が保護者の納得につながります。そのためには、教員が生徒に「評価・評定」について説明責任を果たすことが欠かせません。次年度の課題として取り組みます。あわせて、新年度当初に開催予定の「教育課程説明会」において、各教科の学習指導並びに評価・評定の在り方を説明しますので、保護者の皆様にはご参加をよろしくお願いいたします。

次年度より「特別の教科 道徳」が完全実施となり、各学期に「記述による評価」を行います。そのために今年度は「特別の教科 道徳」の授業実践と評価について教員研修を行いました。向陽中学校として「共通理解」を図るとともに、「特別の教科 道徳」を推進してまいります。

◇ **2 生活指導・進路指導** 【肯定率】生徒 **83.6%** 保護者 **75.6%**

→[次年度の方向性] ①「失敗をバネにする、苦難を乗り越える、能動的に活動する」指導をする。②「わがまま・いじり・嫌がらせをしない」指導をする。③生徒を説得し、生徒が納得する指導を心がける。④保護者に進路の情報提供を心がける。

教育目標の『思いやりのある人』の具現化を目指し、今年度は「特別の教科 道徳の授業実践」等による「自他を大切に作る心」を育てることで「いじめのない学校」をつくることに取り組みました。この取組では、生徒の自己評価「私は4月当初に比べ、他人を思いやったり、他人に感謝したりするようになった」の肯定率を85.0%以上にするという目標を掲げました。結果は**82.1%**(第1学年**74.0%**、第2学年**84.1%**、第3学年**87.1%**)でした。この取組の目標ではありませんでしたが、もうひとつ目標を掲げました。生徒の自己評価「私は4月に比べ、自分に向き合ったり、自主的に行動したりして、たくましくなっている」の肯定率を85.0%以上にするです。参考までにこの結果を紹介すると、**82.5%**(第1学年**77.3%**、第2学年**85.4%**、第3学年**84.2%**)でした。では、結果として「いじめのない学校」をつくることができたかという点、甚だ怪しいと言わざるを得ません。その訳は以下のとおりです。生徒は「私は多くの人と互いに助け合ったり、協力し合ったりして学校生活を送っている」(肯定率**86.9%**)と、人とのかわり方をとても肯定的に捉えていることがわかります。そして生徒同士の間関係が良好であり、相手を思いやる気持ちの表れと見ることができます。うれしい限りです。ところがその一方で、この1年の生徒の様子から判断すると、確かに生徒の成長を実感できる1年ではありましたが、人とのかわり方に未だ課題が残ったままであることも事実です。おそらく“気の合う友達とは助け合ったり、協力し合ったりしている”と判断しているのではないかと考えられます。では、どのような実態があるかということ、自分のわがままな言動で周りの人に嫌な思いをさせたり、その時の気分や雰囲気等で他の生徒をいじったり、同じトラブルを繰り返したりということです。教員はその都度指導をしていますが、根が深かったり、集団になると気が大きくなったりして、もぐら叩きゲームにも似た様相を呈しています。まだまだ時間がかかりそうです。一日も早く“多くの人と”交わる心を育てたいと強く思っています。人間関係づくりに欠かせない『思いやりと感謝の心』が本当の意味で生徒に身に付くことを目指したいと思えます。

つぎに、保護者の評価で気になることは、保護者の評価「学校はいじめや不登校を解決するために、相談のったり、話し合ったりしている」の肯定率が**68.6%**(第1学年**58.0%**、第2学年**73.4%**、第3学年**71.8%**)だったことです。特に第1学年の肯定率が他学年と大きくかけ離れ、低いことがわかります。これは文字どおり、いじめや不登校への対応に相談に乗ったり、話し合ったりできていないと感じているものと思われる。生徒間のトラブルが続いたり、不登校生徒への働きかけを行うも功を奏しなかったりと、解決に至らなかったことが理由として考えられます。次年度の改善点として対応してまいります。

つぎに、進路指導について見ると、3年生は「進路についての先生との十分な相談機会」(肯定率**80.0%**)、「進路に関する十分な情報提供」(肯定率**82.6%**)を概ね良好と捉えています。3年生の保護者は、「進路に関する十分な情報提供・先生との十分な相談機会」(肯定率**58.7%**)を肯定的に捉えていません。進路指導の基本は生徒対象ですが、保護者対象の進路説明会での内容の充実、三者面談や個別面談などでの相談対応の充実が求められていると感じました。ただ、年々進む情報化により、生徒も保護者も必要な情報が得やすくなっていることも確かです。

◇ 3 学校運営・教職員について

【肯定率】 保護者 **80.7%**

→[次年度の方向性] ①「学校の方針・指導の重点の明示(PLAN)→生徒の様子、指導の過程を伝える(DO)→必要な説明・評価(ACTION)」を実践する。②「保護者が知りたいことは何か、学校が保護者に伝えるべきことは何か」を保護者に伝える。

保護者のアンケート項目「学校の取組み」と「教職員」の中で気になることを取り上げます。まずは「学校の教育方針や指導の重点が明確である」の肯定率は**76.4%**(第1学年**80.6%**、第2学年**65.7%**、第3学年**81.4%**)でした。ご覧のとおり、第2学年が他学年より15%程度低くなっています。今年度は、昨年度の反省を踏まえ、保護者会等での説明、向陽だよりや校長室だよりでの説明に工夫を加え、「より明確に、より分かりやすく、より見えるように」を心がけましたが、第2学年の保護者から見ると納得できるには今一步の段階だったようです。確かな関連性があるかどうかは分かりませんが、つぎにデータをご覧ください。「広報活動・情報提供」における保護者の肯定率は、「学校からの様々な便りに保護者として知りたい情報が盛り込まれている」が**81.3%**(第1学年**87.5%**、第2学年**72.6%**、第3学年**83.3%**)、「学校は保護者に対し説明責任を果たし対応をしてくれている」が**74.4%**(第1学年**79.7%**、第2学年**68.1%**、第3学年**75.6%**)でした。冒頭の「教育方針や指導の重点が明確」と同様に、第2学年の肯定率が他学年より低いことがわかります。学校の「何をねらいとしてどのような指導を行うか(PALN)、また、その指導の過程はどうなっているか(DO)、その過程における必要な説明はどうか(DO/CHECK)」という視点で考えると、評価項目が相互に関わりあっているように感じます。このように考えると合点がいきます。参考までに紹介すると、保護者の「先生は我が子の相談をすると、熱心に対応してくれる」の肯定率は**80.0%**(第1学年**78.8%**、第2学年**84.8%**、第3学年**77.0%**)と、第2学年が最も高いです。一方、上記の3項目の中で「説明責任」が最も低いことも気になるところです。「保護者が知りたいことは何か、学校が保護者に伝えるべきことは何か」をもう一度洗い出したいと思います。

ここで、生徒が先生をどのようにとらえているかを見てみます。①「先生は厳しくも温かな気持ちで指導してくれる」の肯定率**83.3%**(第1学年**82.5%**、第2学年**76.5%**、第3学年**90.0%**)と②「先生は生徒一人一人に公平に接してくれる」の肯定率**60.9%**(第1学年**68.4%**、第2学年**47.4%**、第3学年**66.3%**)からは、第2学年の低さが気になるのですが、2年生の幼くわがままな言動にも要因がありそうです。③「先生は親身になって相談に乗ってくれる」の肯定率**68.0%**(第1学年**64.0%**、第2学年**63.3%**、第3学年**75.9%**)からは、生徒の積極的な相談や生徒と教員のかかわりの違いが左右しているように思われます。④「先生はあなたの良いところや努力したことをほめてくれる」の肯定率**74.0%**(第1学年**76.0%**、第2学年**70.0%**、第3学年**75.8%**)からは、教員が“ほめられることの有用性”を共有し、生徒が自己肯定感を土台に自信の種を植え付ける指導を行います。大切なことは、教員が「生徒一人一人に関心を持ち、かかわること」です。これを教員が自分の形で実践するよう求めたいと思います。

◇ **4 学校行事・学校全般** **【肯定率】 生徒 85.9% 保護者 87.7%**

私は「向陽中学校の生徒を見てください！」と言える学校経営に力を入れています。そして、向陽中生は絆に感じ、今年も2大行事で頑張りを見せてくれました。生徒の「向陽中学校は運動会や向陽祭などの学校行事に全校が一体となって取り組んでいる」の肯定率**90.1%**が立証しています。また、保護者の「向陽中は運動会や向陽祭などの学校行事に全校一体となって取り組んでいる」の肯定率**96.1%**も同様です。

つぎは、私が最も気に入っていることです。「毎日の学校生活が楽しい」と「向陽中学校が好きである」の肯定率です。前者が**82.1%**、後者が**82.0%**でした。「学校が楽しい」が土台にある。そして「向陽中学校が好き」が誇りにつながる。